

いいまちづくり観音寺輝き隊通信

令和三年十一月一日 発行

文責：大西
編集：白川

【琴弾公園ヒストリー⑱】

《ちようさ（太鼓台）と十王堂》

琴弾八幡宮神幸殿の前の広場は十王堂と呼ばれています。仏教では生前の罪業の重さを閻魔（えんま）王を始め十人の王が裁判し、地獄や極楽など次の行き先を決定するといふ言い伝えがあります。

十王堂とは、この十人の王を祀るお堂のことを言います。明治時代になって神仏分離令が出される以前は、琴弾八幡宮は第六十八番札所となっており、かつては十王堂の建物が建って



いたということです。琴弾八幡宮秋季大祭では、九台のちようさがこの十王堂に集合します。

ちようさについては、四国では最も古いもので一七八九年に「大野原ちようさ太鼓」の存在が認められています。そして琴弾八幡宮に奉納されたという記録が残されているのは一八〇九年で、今から二一〇年も昔のことです。長い年月守り続けられてきた伝統文化であるちようさ祭りは地元観音寺の誇りです。

【琴弾公園クイズ ③①】

昭和三十一年に、有明浜の松原が〇〇〇〇として瀬戸内海国立公園に含まれました。〇〇〇〇に入る言葉は？

- ①瀬戸内松原
- ②観音寺松原
- ③有明浜松原



◆いいまちづくり観音寺輝き隊◆

私たちは「琴弾公園の魅力高めること」を主な目的にしている小さなボランティア団体です。歴史的なものを見直し郷土愛を高め、まちをもっと元気にしようと呼びかけています。

【夜の琴弾公園 ～灯りイベント～】

10月20・21日は 平日にもかかわらず、予想を遙かに超える方々に参加していただき大盛況に終えることができました。遠くからお越しくださった方もあり、お子さまたちの姿もたくさん見られました。本当にありがとうございました。



八月に開催を予定していた「灯りイベント」でしたが新型コロナウイルス感染拡大のため延期を繰り返し、十月によりやく開催の運びとなりました。



「灯」という常用漢字の読みは「トウ」と「ひ」だけなので公文書では「あかり」を「灯り」と書くことはできないそうです。（もちろん名称としては使えます）それならばと、代わりに「明かり」と書くと、多くの方が透き通った昼の明るさを感じます。「灯り」と書くと、温かみのある少しぼんやりした赤い光を思い描く人が多いのではないのでしょうか。漢字は意味だけではなく共通のイメージや温度・色まで人に伝えるすごさを痛感した秋の夜でした。(M)

『輝き隊通信バックナンバー』と検索または下のQRコードからこの通信のバックナンバーを見ることが出来ます。また観音寺市のホームページからも輝き隊通信は閲覧できます。

